

10月14日（月）新聞掲載（市内3校合同部活動）

8月～9月に神栖市内の3校（神栖高校、波崎柳川高校、本校）が「県立高等学校の合同部活動の体制整備構築実践研究」として、「卓球」、「バスケットボール」で合同部活動を実践しました。

3校合同部活動指導

B2茨城ロボッツ小塚コーチ



県立高校3校のバスケットボール部を指導する小塚みさきコーチ（左）＝神栖市柳川の波崎柳川高体育館

県立高、課題や利点探る

部員不足から学校単独での練習が難しく、大会に出場できなかったりする県立高校の運動部活動のサポートを推進する。県教委の「県立高校の合同部活動の体制整備構築実践研究」事業が9月末終了した。

同事業は生徒数の減少が見込まれる地域で複数校合同の運動部活動を運営し、その課題や利点を確認するのが狙い。

事業の一環として、運動部顧問に代わって生徒を指導し、バスケットボールBリーグのB2茨城ロボッツのU15（15歳以下）育成コーチ小塚みさきさん（39）が、運動部活動指導員として派遣された。

小塚さんは「最初は学校ごとに関わって取組んできたが、最後のゲーム形式の練習では、学校ごとの隔たりは見られなかった」と成果を実感した様子。その上で「部活における各校の目的や価値観が違うので、価値観が近い学校同士で組めば、よりよいものになる」と総括した。

部員が3人しかない神栖高女子バスケットボール部主将の2年、飯野佐恵さん（17）は「普段できない練習ができて楽しかった。人数が多い方が盛り上がるし、いろんな意見が出るので成長できる」と利点を話した。（大輪佳那子）

茨城新聞 2019年10月14日